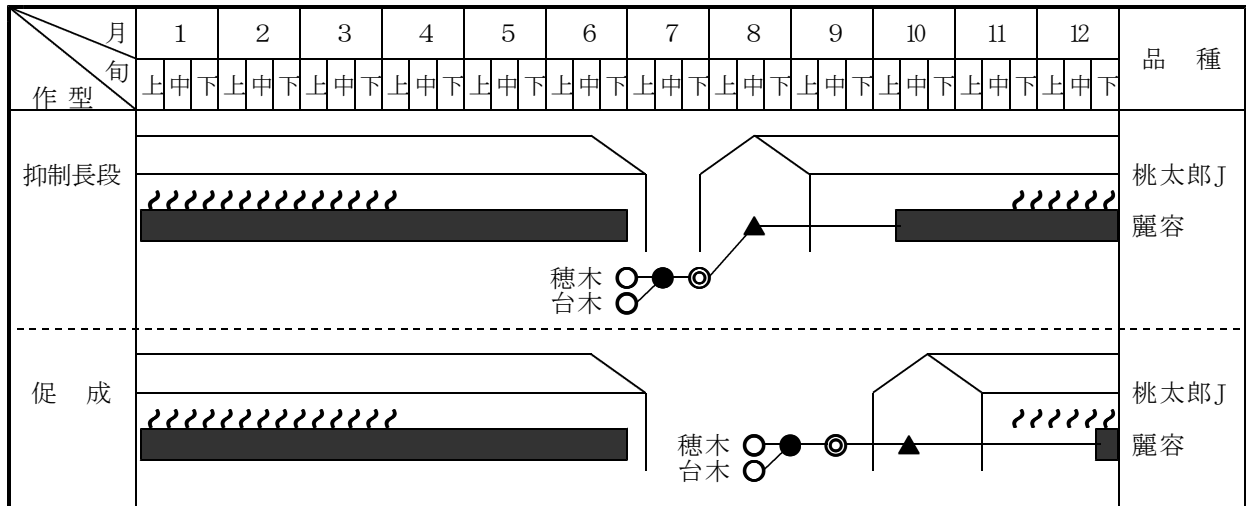


作目名	ト マ ト
-----	-------

作型名	抑制長段・促成
-----	---------



○:は種 ●:仮植 ◎:接ぎ木 ▲:定植 ??:暖房 ■:収穫

注) 海津地域では8月中の定植を抑制長段、9～10月の定植を促成と呼んでいる。

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

美濃平坦部（岐阜、西濃、中濃）

(2) 立地条件

①気象条件

冬期の日照時間が長く、温暖なこと

②ほ場条件

- ・有機物の投入等により、排水性・保水性が高く、作土が深く、地力の高い土壌であること
- ・加温・換気装置を装備した耐風・耐雪構造のガラスまたはプラスチックハウス

③栽植株数（10a当たり）

2,000～2,200株（2本仕立ての場合、1,000～1,100株）

(3) 目標収量（10a当たり）

8月定植(抑制長段)：22 t

10月定植(促成)：18 t

○施肥基準

(1) 施肥基準量 (10a当たり・kg)

①抑制長段

施肥成分	総 量		基肥	追 肥								
				1	2	3	4	5	6	7	8	
窒 素	化学肥料由来	22.5	15	1	1	1	1	1	1	1	1	0.5
	有機質肥料由来	17.5	10	1	1	1	1	1	1	1	1	0.5
りん酸	40		25	2	2	2	2	2	2	2	2	1
加里	40		17	3	3	3	3	3	3	3	3	2

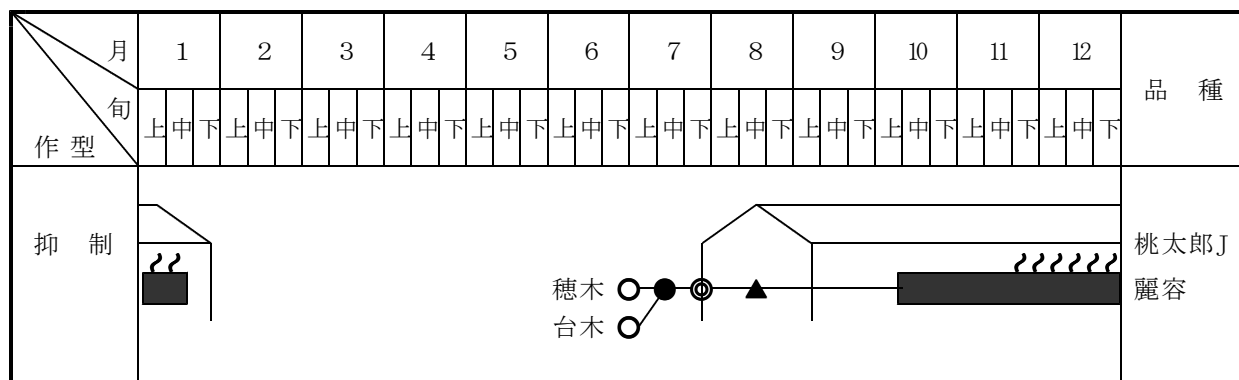
②促 成

施肥成分	総 量		基肥	追 肥								
				1	2	3	4	5	6	7	8	
窒 素	化学肥料由来	18.5	13	1	1	1	1	1	1	0.5		
	有機質肥料由来	13.5	8	1	1	1	1	1	1	0.5		
りん酸	32		21	2	2	2	2	2	2	1		
加里	32		15	3	3	3	3	3	3	2		

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 土壌分析を行い、土壌改良剤、基肥施用量を決定し、過剰な施肥を避ける。
- 3 育苗培土の施肥成分量は、培土1㎡当たり窒素0.2kg、りん酸1.0kg、加里0.2kgを基準量とする。

作型名	抑 制
-----	-----



○:は種 ●:仮植 ◎:接ぎ木 ▲:定植 ??? :暖房 ■:収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

美濃平坦部（岐阜、西濃、中濃）

(2) 立地条件

①気象条件

冬期の日照時間が長く、温暖なこと

②ほ場条件

- ・有機物の投入及び暗渠排水の整備により、排水・保水性が良く、作土が深く、地力の高いこと
- ・加温・換気装置を装備した耐風・耐雪構造のガラスまたはプラスチックハウス

③栽植株数（10a当たり）

2,000~2,200株（2本仕立ての場合、1,000~1,100株）

(3) 目標収量（10a当たり）

10 t

○施肥基準

(1) 施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総 量		基肥	追 肥									
				1	2	3	4	5	6	7	8		
窒 素	化学肥料由来	11	11										
	有機質肥料由来	7	7										
りん 酸	18		18										
加 里	18		18										

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 土壌分析を行い、土壌改良剤、基肥施用量を決定し、過剰な施肥を避ける。
- 3 育苗培土の施肥分量は、培土1㎡当たり窒素0.2kg、りん酸1.0kg、加里0.2kgを基準量とする。

作型名	半促成（抑制の後作）
-----	------------

月	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品 種			
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中		下		
作 型	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
半 促 成																									桃太郎J 麗容			

○:は種 ●:仮植 ◎:接ぎ木 ▲:定植 ??? :暖房 ■:収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

美濃平坦部（岐阜、西濃、中濃）

(2) 立地条件

①気象条件

冬期の日照時間が長く、温暖なこと

②ほ場条件

- ・有機物の投入及び暗渠排水の整備により、排水・保水性が良く、作土が深く、地力の高いこと
- ・加温・換気装置を装備した耐風・耐雪構造のガラスまたはプラスチックハウス

③栽植株数（10a当たり）

2,000～2,200株（2本仕立ての場合、1,000～1,100株）

(3) 目標収量（10a当たり）

15 t

○施肥基準

(1) 施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総 量		基肥	追 肥									
				1	2	3	4	5	6	7	8		
窒 素	化学肥料由来	14.5	12	1	1	0.5							
	有機質肥料由来	9.5	7	1	1	0.5							
りん 酸	24		19	2	2	1							
加 里	24		16	3	3	2							

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 土壌分析を行い、土壌改良剤、基肥施用量を決定し、過剰な施肥を避ける。
- 3 育苗培土の施肥分量は、培土1㎡当たり窒素0.2kg、りん酸1.0kg、加里0.2kgを基準量とする。

作型名	雨よけ栽培
-----	-------

月 旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	
東濃・中濃													桃太郎8
飛 騨													

○ は種 △定植 ■ 収穫 〰️ ハウス

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

中濃、東濃、飛騨（標高400～800m）

(2) 立地条件

① 気象条件

ハウス屋根被覆によって外気温より2℃程度高くなるので、8月上旬の平均気温が23～25℃となる冷涼地が適当である。最低気温が10℃以下になる時期は側面にもビニールを張って保温する。日当たりが良く、暴風雨の影響が少ない圃場を選ぶ。

② ほ場条件

作土が深く排水の良い畑とする。ハウス周囲に排水路を設け、雨水は速やかに地表排水する。開墾地及び水田転作畑では作付前に、炭カル、りん酸質資材で土壌改良を行う。かん水装置の性能を発揮する水利の良いほ場を選ぶ。

(3) 栽植株数 (10a当たり)

2,000本

(4) 目標収量 (10a当たり)

10t

○施肥基準

(1) 施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総量		基肥	追肥		
				第3段花房の開花直前 ～第4段花房の開花	第5段花房の開花 ～第8段果房の開花	第9段花房の開花以降
窒素	化学肥料由来	17.2	2.8	1.8	12.0	0.6
	有機質肥料由来	6.0	6.0			
りん酸		29.7	18.9	2.4	6.0	2.4
加里		23.2	8.8	2.4	9.6	2.4

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 水田転作・開墾地では苦土石灰施用前に土壌調査を行い、炭カル及び重焼燐で土壌改良をしておく。
- 3 接ぎ木栽培は、基肥を台木品種に応じて加減する。
- 4 若苗定植の場合は、基肥の窒素量を控え、追肥中心とする。